興味・関心を高める現地見学から始まる大地の学習

第６学年「土地のつくりと変化（大日本図書）」

藤津鹿島地区　能古見小学校　木下明信

１　単元計画（本時１～３／１７）

第１次　堆積地層の見学・化石のクリーニング（現地学習会）（３時間）
第２次　地層のでき方（７時間）
第３次　火山灰でできた土地（３時間）
第４次　土地の変化（４時間）

２　本時の目標

堆積地層を見学し化石のクリーニングを体験することで、、土地の様子やつくり・地層に含まれているもの・地層のでき方に興味関心を持つことができる。

３　授業の実際

児童の学習活動や主な反応	具体的な指導（理科授業のポイント）
１　がけの様子を観察しよう。 「斜めに重なっている。」 「レンガを積み重ねたようになっている。」 「場所によって色が違う。」 「石炭みたいな石がある。」 「教科書の写真のようだ。」	○がけの様子をスケッチしよう。 ・１０分程度の簡単なスケッチをさせる。 ・岩石や土の重なりが描ける程度で良いこととする。 ○岩の部分・土の部分を触ってみよう。 ・れんが状の岩を外したり、土の部分を少し掘ったりさせる。 ○講師の先生の説明を聞こう ・砂泥互層について ・石炭層について ・簡単な言葉で目の前のがけの様子を説明してもらう。 ・れん痕（波の跡）や断層など、児童が気付かずにいることにも触れてもらう。 ・石炭を取り出して、実際に燃やしてもらう。 ○児童の発見や不思議を今後の授業展開にいかせるように記録させる。
２　宇宙科学館の方のお話を聞き、化石のクリーニングをしよう。	○宇宙科学館に移動し、化石についての説明を聞く。

 「何万年も前の化石だ。」 「アンモナイトはきれいな渦巻き模様だ。」 「大きなものから小さなものまでいろいろある。」 「ぴかぴかに磨くぞ。」	・クジラの背骨、サメの歯、シダの葉など現物手に取りながら、説明を聞く。 ○化石（アンモナイト）のクリーニングをする。 ・６０分程度の作業を行う。 ・出来上がったものを見せ合う。

4　考察

○　今回は、単元「土地のつくりと変化」の導入段階で、現地見学学習及び化石のクリーニングを取り入れた。児童の興味関心を高めることができ、学習意欲を継続させ１７時間の学習に取り組むことができた。

○　これまで、「土地のつくりと変化」の学習では、写真・ビデオを学習材として用いてきたが、時間の経過や大地の広がりへの関心が希薄であった。

　地層のわかる場所に立ち、歩き回ったり触れ合ったりすることで、その広さやダイナミックさを味わうことができ、興味関心につなげることができた。

　また、化石（アンモナイト）のクリーニングを行い、完成した化石を所有することで地層をより意識的に捉えるきっかけとなった。

○　校区内に見学のできる適当ながけがなかったが、バスで２０分程度の場所に現場があり、「ふるさと人材育成補助」の予算を活用して現場に出向くことができた。また、宇宙科学館の学校支援事業を活用して地学に詳しい専門家に参加を依頼し、今後の授業につながるポイント抑えをしてもらった。

○　第２次以降の学習においても、５年「流れる水のはたらき」との関連を図ったり、地層のでき方モデル実験を行ったり、興味関心が継続する工夫が必要である。

5　参考事項

○観察場所　嬉野市塩田町大字久間　北志田（北志田バス停付近）

○講師の依頼　佐賀県立宇宙科学館　ゆめぎんが

学校教育支援事業　担当者　辻　茜　先生（地学担当）

ＴＥＬ　０９５４－２０－１６６６

○化石のクリーニング　料金一人１００円　（他に入館料１００円が必要）